

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470300993		
法人名	(有)ヘルパーステーション よろこび		
事業所名	グループホーム ほたる		
所在地	三重県鈴鹿市池田町1335		
自己評価作成日	平成22年11月17日	評価結果市町提出日	平成23年2月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigos.pref.mie.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2470300993&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 22年 12月 16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節のメニュー、懐かしいメニューを取り入れ、おやつも出来るだけ手作りし食べる楽しみ大切にしている。職員は、利用者の個性や今の状態を把握して、その方の人生の終末に縁あってかかったという意識を持ち、安心して生活して頂けるよう努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

鈴鹿川近くの田園地帯に位置し、懐かしい雰囲気有する環境である。母親の介護の経験から、地域密着型介護事業所をとの篤いおもいで開設された1ユニットのグループホームである。利用者・家族・職員に全幅の信頼がある管理者のもと、『利用者に手をそえて、笑顔でこたえる介護の心』を合言葉にして、職員も理念『その人らしい生き方・共に歩き、共に生きる』を共有し、ケアの質の均一化の実践に取り組んでいる。地域の『生き生き講座』への参加や『おたっしゃ広場(鈴鹿地区小規模介護施設の取り組み)』の作品展見学・季節の行事など楽しみごとを工夫して支援している。家族の訪問も多い、笑顔の絶えない、和やかな事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関から入り口の廊下に貼ってある理念は目に入りやすい。管理者、職員はよく理解し実践できるよう努力している。	事業所開設時より『その人らしい生き方・共に歩き・共に生きる』を理念として掲げ、家庭的な雰囲気の中で、利用者一人ひとりが、地域の一員として暮らし続けられるように地域住民との交流に積極的に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2か月毎の運営推進会議には自治会長、民生委員の方に参加して頂き、地域の行事の情報を教えてもらったり、近所の床屋さんに定期的に散髪してもらったり、散歩時には近所の方と挨拶し言葉交わし交流している。	自治会から配布される『生き生き講座』地域の高齢者の方々のための音楽療法に利用者も参加し、地域の方々と交流している。また事業所周辺の散歩時など日常的にお付き合いをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市民館の行事に参加し、高齢の方だけでなく小学生との交流会にも参加し、認知症の方も出来る事はたくさんある事見て頂き、理解を深めている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎の運営推進会議では施設が今どのように運営されているか、具体的に議題にし出席者の意見を伺いサービス向上に活かしている。今年度は家族会が発足し、さらに施設への要望が言いやすくなったと思われる。	運営推進会議は鈴鹿市北部地域包括支援センター、自治会長、民生委員、家族代表が参加し、2ヶ月ごとに開催している。事業所の現況や課題を話し合いそこでの意見をサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設運営などで分からない事があれば、広域連合に連絡しアドバイスを頂いている。	鈴鹿亀山地区広域連合介護保険課とは事業所の運営上の相談などを常に行い協力関係を築くようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	すべての職員は何が拘束になるか理解している。利用者の安全を考えながら、身体拘束しないケアに取り組んでいる。	管理者・職員は職員会議などで身体拘束や言葉の拘束について話し合い、拘束なく生活できるように支援している。(現在、転倒の危険性を考慮し、家族の了解のもと、夜だけベッドの柵をしている方がいる。)	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、ケアマネは研修を受けている。職員は身体的虐待はもちろん、精神的虐待にも注意し、利用者に接するようにしている。	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、ケアマネは研修を受けている。現在当施設で必要な利用者はいない。今後必要な方があれば、活用支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、内容については時間をかけ詳しく説明している。納得して頂いてから契約を交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族に参加して頂き、意見を伺い運営に反映させている。今年度は家族会も発足したので、施設に対する要望もスムーズになると思われる。利用者には、計画書更新時や入所の際に施設への希望を伺っている。	利用者、家族がどのようなことでも話せる雰囲気づくりに留意して、日々職員は笑顔で支援している。(今年、第1回目の家族会を開催し5家族が参加された。そこから出された意見・要望は職員ミーティングなどで話し合い、サービスの質の向上に繋げている。)	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員ミーティングは全員参加で、施設運営や利用者のサービスについての意見を聞き、検討した結果を運営に反映させている。管理者は毎日出勤しており、提案などあればすぐに聞ける状態である。	管理者は日頃から職員とのコミュニケーションを図るように心がけている。担当職員の利用者との日常的なかかわりの中での気づきやアイデアを十分に聴き、活かしていくように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員の力量や勤務態度など、共に仕事をしていく中で十分理解している。出来る範囲で給料に反映させている。研修への参加の呼びかけ、認知症、介護の専門書など購入し学ぶ環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内は掲示して、参加の声掛けはしている。施設内研修も必要に応じて行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	鈴鹿市の同業者で年1回開催している、おたっしや広場の作品展に参加したり、地域密着型サービス協議会の研修に参加し交流を図り、学んだ事をサービスの質の向上につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には家族から本人の情報、担当ケアマネから今までのアセスメントをもらい、現在の生活からスムーズに施設生活へ移行できるよう対応をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前には、家族は大切な自分の家族を施設に預けるという事で気持ちが不安定になってみえる事がある。少しでも安心して頂けるようゆっくり話伺い、良好な関係づくりが出来るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	前ケアマネージャー、家族からの情報を元に入所直後からのサービスをとりあえず考えるが、在宅時とは違って来る場合が多いので、臨機応変に変更していく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が今までの生活の中で得意としてきた事は、職員より上手くできる事が多々ある。職員が教えてもらったり、手伝ってもらったりしながら、よい関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の今までの生活歴、性格などは家族が一番理解している。サービス計画を立てたり、問題が生じた時には共に考えて頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前によく買い物に出掛けていたスーパーに職員と一緒に施設の買い物に出かけ、馴染みの店員と話したりする機会を設けている。	利用者が新聞広告を見て、馴染みの洋品店に買い物に出かけたり、在所の民生委員の方の訪問や地域のお地藏さんへ散歩など、馴染みの場所や方々との関係を大切に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	元気な利用者さんが車椅子の利用者さんの世話をしてくれるなど、自分の役割のように関わっている。安全に関われるよう見守りしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院、退所した後も見舞いに伺ったり、家族から電話で状態を確認している。次の施設を探す場合も、出来るだけの支援はしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の思いや希望を言える利用者ほもちろん、表現出来ない利用者の思いは、家族と相談したり、日々生活していく中で好き嫌い、性格などから意向をくみ取り、暮らしやすいように支援している。	利用者の言葉や言葉にしにくい思いを日々の関わりの中で把握に努め、センター方式の一部を活用し、記録を工夫して、支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に家族、前担当ケアマネから情報をもらい、生活歴馴染みの暮らし方など把握しスムーズに施設生活を始める事が出来るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者それぞれの、出来る事、出来ない事、体調、病状などは把握している。その上で役割など決め、色んな手伝いや、レクをしながら1日を過ごして頂いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	意思伝達出来る利用者には希望を伺う。管理者、ケアマネ、サービス担当者で会議を開きモニタリングを行うが、家族からは面会時に希望を伺い、現状に即した介護計画を作成している。	利用者と家族の希望と思いを把握し、職員の意見やアイデアも取り入れて、管理者・ケアマネージャー・担当職員で会議を開き、モニタリングを行っている。定期的な介護計画の作成や随時の見直しも行き、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は、日々の様子を日誌に記録している。特別な変化があれば、管理者ケアマネに報告があり、サービスの変更が必要であれば、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	管理者、ケアマネのシフトは余裕が持たせてあるので、利用者が急に体調を崩した時など、家族が対応出来ない場合もすぐ受診しているし、必要な物があれば、買い物に出掛けたり柔軟な対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設の近くに畑を借りており、近所の方に菓をもらい野菜の下に敷いたり、会話を楽しみ作業している。市民館の行事に参加し地域の方と交流する機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一応施設の協力医は決まっているが、家族にかかりつけ医は決めてもらっている。受診時には普段の様子をまとめた介護日誌、バイタルのグラフを持参してもらい、適切な医療を受けられるよう支援している。	事業所の協力医(24時間対応)は決められているが、利用者・家族の希望するかかりつけ医となっている。定期的に整体師の訪問や、歯科医・皮膚科医の受診の支援もしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	皮膚状態に変化があった時や、内服薬についてなど相談し、助言してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、ケアマネが病院まで付き添い病院関係者に情報提供し、必要な物は施設にあれば持参している。入院中も家族や病院関係者と情報交換し、利用者にとって良い方法を考えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、家族には当施設は終末期まで利用できない事は説明しているが、終末期が近づいてきたと思われる場合は、家族や病院などと相談しながら退所の時期を考えるようにしている。	利用時に利用者、家族に重度化や終末期の介護・支援については出来ないことをきちんと説明して了解を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は、施設内研修で熱中症について学んだり、消防署の心臓マッサージや救急処置の講習を受けており、緊急時の対応が出来るよう訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回訓練は行っている。日中及び夜勤者一人の時の訓練も行った。防災担当者が地域の防災訓練に参加し地域との協力体制を築いている。	防災担当者が地域の防災訓練に参加している。年2回消防署の指導の下、日中、夜間想定訓練を行っている。(事業所内の大きなタンクに水の備蓄をしている。)	利用者が昼夜を問わず安全に避難ができるように現状の訓練と合わせ、特に職員が手薄となる夜間などに地域の協力も得て避難訓練を定期的実施されることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症になっても、それぞれの性格があり、今まで頑張って生きてきた誇りがあるという事をふまえ、職員はプライドを傷つけないよう、やさしい言葉掛けで対応している。	利用者一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損ねないようにさりげなく、笑顔での対応で支援し、優しい話し方を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が日常的に、自分の思いを気軽に伝える事が出来るような関係づくりをしている。ケアプラン更新時にも自己決定できる利用者には要望を伺っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ADLの落ちてきている方、元気な方、認知状態もそれぞれ違うなか、日々の暮らしの中で、1人1人ペースを大切に、散歩の距離や買い物など体力に合わせ支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に出張理容師に来てもらい、毛染めする利用者は理容院に行ってもらおう。洋服は出かけた時に気に入った服を購入される方もみえる。髭剃りは出来ない部分は職員が介助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栗ご飯、松茸ご飯、すいとんなど季節のメニュー、懐かしいメニューなど取り入れ、利用者にも何が食べたいか伺い献立を作っている。野菜の下ごしらえ、食器洗いなど、職員とともにやっている。	五感を刺激するオープンキッチンである。本日のメニューの肉じゃがのジャガイモの皮むきをする方、おやつ白玉団子を作られる方など一人ひとりの好みや力を活かしながら食事が楽しみなものになるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	野菜を中心に、肉、魚、大豆製品、海草類などバランスを考え献立を作っている。利用者によって食事量を考え、体重の増減にも注意している。1日の水分量も記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でブラッシング出来ない利用者は職員が介助し、出来る利用者は見守りで口腔ケアしている。義歯は夕食後洗浄液に入れ、清潔を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	便意、尿意のない利用者は時間をみて、トイレ誘導している。失禁の多い利用者には、早めに声掛けして失敗のないよう支援している。	日々の寄り添うケアから尿意のサインや表情から一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄支援を行っている。リハビリパンツから布パンツ使用になられた方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	麦ご飯、野菜、果物から食物繊維は十分摂取出来ている。水分摂取の少ない利用者には声掛けして飲んでもらっている。排便の状態をチェックし内服薬、座薬使用し便秘にならないよう注意している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間を利用者の希望に合わせる事は難しいが、好みの湯加減も職員は把握している。コミュニケーション取りながら、入浴を楽しんでもらっている。	毎日入浴できる体制で支援している。冬至にはゆず湯・5月には菖蒲湯など入浴を楽しむことができるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節に応じて寝具を替え、シーツも定期的に洗濯し清潔にしている。室温も各居室の室温計で管理し気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケアマネが薬の管理を行っており、利用者の体調を観察し、状態に変化があれば主治医に相談し処方の変更をしてもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	草取りが得意な利用者には草取りを、洗濯物干しが好きな利用者には洗濯物干しというように、職員は利用者の得意な事を把握し役割を作ることで、張りを持った生活が出来るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望にそっては無理だが、外出好きな利用者は、管理者ケアマネが出掛ける時は、できるだけ一緒に出掛けるようにしている。	天気の良い日には近隣の田畑周辺やお地藏様への散歩・隣町の足湯に行ったり、出来るだけ利用者の希望にそった外出の支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出掛ける際は、自分の財布を持って出かける。職員見守りで、好きなものを購入し自分の財布から支払ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠くに住んでいる姉妹から、贈り物が届いた際にお礼の電話を自らしたり、手紙の返事を書けるよう便箋を渡し、封筒の宛名をチェックし投函するなど支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間はカーテンで光の調整をし、室温も過ごし易いよう管理している。トイレも汚れがあれば掃除し、PTは使用の度処理し、消臭剤を使用して臭いは早く消す。居間には職員が持ってきた季節の花を飾り季節感を感じる事が出来るようにしている。	季節の花が生けられた明るい共有空間には畳のスペースもあり、ゆったり過ごせる工夫が随所にみられる。また空気清浄器や加湿器が2ヶ所ずつに置かれて利用者の健康にも配慮した空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の決まった席に座り居眠りしたり、気のあった利用者の隣に場所変え会話楽しんだり、思い思い自由に過ごしてもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に、部屋に入るものであれば自由に持ち込んでもらっていると説明している。使い慣れたたんす、ご主人の遺影、位牌など持ち込まれ本人が居心地いい空間にしている。	写真や思い出の物品が持ち込まれ利用者の居心地の良さに配慮している。また各居室の窓からは季節の田畑の風景が一望でき、懐かしい雰囲気有する空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、風呂場、居室には分かりやすいよう名前が明記してある。床はバリアフリーで廊下や浴室、トイレには手すりが付けてある。利用者が自由に安全に生活できるよう工夫している。		